

図画工作科学習指導案

3年2組 27名 指導者 下之藪 崇

本授業は、以下の検証を行うものである。
作品から感じた色や形、イメージなど〔共通事項〕の視点に着目し、製作の中で意図的に鑑賞の時間や交流の時間を設けることは、発想や構想を広げ、工夫しながら製作活動を行っていく手立てとして有効であったか。

1 題材 うれしかったあの気持ち (絵に表す)

2 目標

うれしかったことを、そのときの気持ちが伝わるように、表し方を工夫して絵に表す。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
うれしかったことやそのときの気持ちが表れるように、かき方を工夫している。 友人と絵を見せ合いながら、表したかったことや表し方の工夫を感じ取っている。	うれしかったことやそのときの気持ちが伝わる、場面の工夫を考えている。	うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを通して、表現することを楽しもうとしている。

4 題材について

(1) 題材について

本題材は、子供が、うれしかったことやそのときの気持ちを大切に表し、伝える楽しさを味わうようにすることをねらいとして設定している。

この時期の子供たちは、興味や関心をもつ対象が広がるとともに、物の重なりや大小関係を捉えた客観的な表現が見られるようになる。一方、夢や願いをかいたり、冒険心に富んだ表現を試してみたりするなど、想像力を働かせることを楽しむ姿もある。扱える用具の範囲も広がり、自分の表したいことに合わせて材料や用具を使うことができるようになる。また、他者との交流が深まり、相手を意識した言動をとることができるようになる。そのため、形や色などと自分のイメージを関連付けた作品について、こだわって製作したことを友達と伝え合うことに喜びを感じている。

そこで、子供自身の感じ方やものの見方を大切に、見たことや感じたことについて、表し方を工夫して伝える楽しさを味わうことができるようにする。そのため、子供自身が注目した興味のある部分や、自分なりに捉えた形や色から、表したいことを発想し、工夫して表現することができるようにしていく。

こうした活動を通して、表し方を試したり、かき方の工夫を重ねたりして表現を楽しむ態度が育つと考える。また、自分なりのイメージを膨らませ、表したい感じになるように、形や色、組み合わせなどの感じを工夫して表現するなど、豊かな発想や構想する能力が高められると考える。

(2) 子供について

子供たちはこれまでに、自分の感じたことや想像したことを基に、1年次「せんせいあのね」2年次「たのしかったよドキドキしたよ」など、表したいことを発想して表すという活動を行ってきた。

絵に表すことについてのアンケートでは、「絵をかくことが好き」と答えている子どもは24名、苦手と感じている子供は3名であった。苦手と答えた子供の理由は、「なにをかいていいかわからない。」「思い通りにいかない。」「どうやってかいたらいいかわからない。」という回答があった。このことから、絵をかくことは好きと感じながらも、思ったことをうまく表現する方法を知らず、伝えるための工夫について、もっと知りたいと感じている子供がいることを感じた。そのため、自分の思いを基に、具体的に詳しく、形や色を考え、見通しをもって活動できるようにし、意欲的に最後まで製作活動を行うための手立てが必要であると考えた。

(3) 指導について

本題材の学習では、導入や製作途中、鑑賞の場面で、思いを伝える表現方法について交流する機会を設け、見方や感じ方を広げることのよさや楽しさを味わいながら、活動できるようにしていく。そのために「見える図」を活用し、一人一人が自分の思いをもち、そこから広げたイメージを整理したり、友達との交流によって広がった考えを共有・吟味したりしながら、こだわりをもって最後まで工夫して製作できるようにする。

5 指導計画 (総時数7時間)

○重点化する「全ての学習の基盤となる資質・能力」

次	主な学習活動【評価規準】	単	基盤となる資質・能力					
			言	情	問	実	協	振
思いをもつ	1 題材や題材名ボードと出会い、学習活動を確認して表現への思いをもつ。 2 題材のめあてを捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">うれしかったことを、そのときの気持ちが伝わるように表し方を工夫して絵に表そう。</div> 3 「見える図」を活用し、絵に表したいものを視覚化する。 4 アイデアスケッチを行う。	1			○			
思いをふくらませる	5 2つの作品例を見て、作者の思いが伝わる作品について考える。 6 参考作品を見て、伝えたかった気持ちや表現の工夫について話し合う。 【ふむふむ交流】 7 話し合いで気付いたことを生かして、自分の表したいことを「見える図」で視覚化する。 8 「見える図」を基に再度アイデアスケッチを行い、構想を練る。 9 アイデアスケッチや「見える図」を鑑賞し、互いのいいところを見付ける。 【態：うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを通して、表現することを楽しもうとしている。】 【思：うれしかったことやそのときの気持ちが伝わる、場面の工夫を考えている。】	1 轉		○	○		○	
自他のよさに気付く	10 うれしかった気持ちが伝わるように工夫して絵に表す。 11 表現の途中で互いの作品を見せ合い、それぞれのこだわりを見付けながら自分の表現に生かす。 【なるほど交流】(こだわりみつけタイム) 【思：うれしかったことやそのときの気持ちが伝わる、場面の工夫を考えている。】 【知：うれしかったことやそのときの気持ちが表れるように、かき方を工夫している。】	4	○		○	○	○	
新たな思いをもつ	12 作品紹介カードやこだわりみつけカードを書き、互いの工夫やよさを発表しあう。 【いいね交流】 【知：友人と絵を見せ合いながら、表したかったことや表し方の工夫を感じ取っている。】 【態：うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを通して、表現することを楽しもうとしている。】	1	○				○ ○	

6 本時(2/7)

(1) 目標

うれしかったことやそのときの気持ちが伝わるように表し方を工夫する。

(2) 評価規準

うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを通して、表現することを楽しもうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

うれしかったことやそのときの気持ちが伝わる、場面の工夫を考えている。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

ア 主体的な学びの視点

「思いをもつ」過程において、2枚の参考作品を比べることでどちらの作品が、より思いが伝わるかを考えさせることから、めあてにつなげ、本時の課題を認識し、問題意識を高めることができるようにする。また、「自他のよさに気付く」過程において、この学習で見出した表現の工夫を自他の作品の中に見付け、賞賛し合うことによって今後の製作に意欲的に取り組めるようにする。

イ 対話的な学びの視点

「思いをふくらます」過程において、作品に込められた思いが伝わるポイントをグループで話し合うことによって、様々な表現の工夫や、作品を見る視点を吟味させ、自分の作品に生かしてみたいという気持ちがもてるように、協働的な学び合いで調べる場を設定する。

ウ 深い学びの視点

「新たな思いをもつ」過程では、本時の学習を振り返り、「見える図」やアイデアスケッチによって、表現したいことを明確化し、製作の見通しを立てることのよさを感じさせ、今後の製作や日常生活に生かすことができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て・評価
思いをもつ	5	<p>1 2枚の参考作品を見比べ、より、思いが伝わる作品について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ題名なのに、全然違うな。 ・Aの作品は、迫力があるな。 <p>2 本時のめあてを捉える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">気持ちが伝わるような表し方のひみつはなんだろう。</p>	<p>○ 構図や色、形（動き）の異なる2枚の作品を用意し、作者の思いやこだわりが感じられるように題材との出会いを工夫し、活動への意欲をもつことができるようにする。</p> <p>○ 子供の発表や反応からキーワードを提示し、めあてにつなげる。</p> <p>○ 自分の気持ち（思い）を伝えるための工夫があることを知り、試してみたいという思いをもつことができるようにする。</p>
思いをふくらます／思いを表現する	33	<p>3 自分たちが選んだ作品がなぜ、気持ちが伝わってくるのかをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かいところまでよくかいているね。 ・大きさが違うから、何を一番かきたかったかが伝わるね。 ・色がたくさん使われていて、ぬり方も工夫しているね。 ・人や物が重なっていてリアルだな。 <p>4 グループで見つけた、気持ちが伝わる表し方のひみつを発表し合い、全体で見える図に分類してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分けてみると形・色・思いに分けられるね。 ・重なりや大きさも大切なんだね。 ・絵の具の使い方も工夫したいな。 <p>5 前時に作成した見える図（コンセプトマップ）やアイデアスケッチなどを基に、作品への思いや、かきたい物、やってみたい表現の工夫をワークシートの見える図に書き込み、2回目のアイデアスケッチをかく。</p>	<p>㊦ 参考作品は、県図画作品展の第3学年入賞作品を提示し、自分たちと同世代の表現の工夫を見ることにより、自分事として考えさせる。</p> <p>○ 同じ題名の作品でも、作者の思いや表現の仕方によって、感じ方が違うことに気付くことができるような参考作品を提示する。 (ふむふむ交流)</p> <p>○ 表し方の工夫への気付きが抽象的なグループには、より具体的な気付きにつながるような言葉掛けを行う。</p> <p>㊧ じっくり作品を見てみると、思いを表すために様々な工夫があることに気付き、今後の製作の参考になるように、グループでの協働的な学び合いで調べる場を設定する。</p> <p>※ うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを通して、表現することを楽しもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>※ うれしかったことやそのときの気持ちが伝わる、場面の工夫を考えている。 【思考・判断・表現】</p>
自他のよさに気付く／新たな思いをもつ	7	<p>6 互いのアイデアスケッチや見える図を見て友達のよさを見付け発表し、本時の学習を振り替える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">気持ちが伝わるような表し方のひみつは、形や色の工夫や、重なりや大きさを工夫するといふ。</p> <p>7 次時の学習を確認することで、製作への新たな思いをもつ。</p>	<p>○ 学習で見い出した表現の工夫を自他の作品の中に見付け、賞賛し合うことによって今後の製作に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>○ 板書や自分の「見える図」、アイデアスケッチを見て、本時の学習を振り返る。</p> <p>○ 次時では実際にかき始めることや絵の具も使うことを伝え、意欲を高める。</p>